

札幌市内在住の自転車愛好家たちが、「札幌のマチに似合う」をコンセプトにした自転車を開発した。その名も「サッポロバイク」。冬期間の保管を考えて小型化し、暮盤の目に区切られた道が多い市内で小回りが利くようにと、タイヤも小さめに設計した。8月にも100台限定で販売する計画で、メンバーは「スーツでさっそうと自転車に乗る姿をイメージした。おしゃれに乗りこなしてほしい」とPRしている。

(片山由紀)

事業者に要望や意見

札幌市北区の「北8西1地区」再開発事業の変更案に関する説明会が25日夜、市内で開かれた。地区に隣接する北九条小の日照時間確保のため、事業者側が50

これに対し、事業者は「真摯に対応していきたい」と答えた。市は7月中旬に、変更案を市都市計画審議会に諮問する見通し。

(片山由紀)

品した。洞爺湖や屈斜路湖、釧路川、馬産地の牧場など墨と絵の具を織り交ぜた色談笑しながら作品を解説する朱振南さん(右から2人目)

札幌に似合う快適自転車

スーツで乗る姿イメージ

冬の保管考え小型軽量化



「サッポロバイク」をPRする太田代表

昨年11月に発足した大学教授やNPO法人職員など十数人でつく

る「サッポロバイクプロジェクト」が開発した。車体は、メンバーのアイデアを東区の自転車製造卸業、武田産業がデザイン化。同社を通じてメーカーに発注した。

プロジェクト代表の太田明子さん(51)は4年前に足のけがで入院。4カ月後に退院する際、医師

愛好者ら開発 8月にも100台販売

から「自転車は足に負担がかからない」と言われ、リハビリを兼ねて乗るようになったところ、外出することで気分転換を図るとともに、体力も付いたという。

その経験から「自転車は、車や歩行者の邪魔になると、嫌がる人も多いが、健康にいいし環境にもやさしい。もっと普及したい」と考え、周囲に呼び掛けてプロジェクトを始動した。

車体は全長140センチ。タイヤは通常より小さめの20インチで、冬期間や駐輪場での保管を考慮し、重さは約10キロに抑えた。ハンドルはブルホーンバーと呼ばれるタイプで7段変速ギア。色はスーツやジャケット姿に合わせやすいように、青と白の2色を用意している。

税抜きで1台3万9800円。

各色50台限定で販売する。すでに予約を受け付けており、試乗もできる。太田さんは「札幌はちょっと走れば自然風景に出合える、サイクリングに最適なまち。自転車ライフを楽しんでほしい」と語っている。問い合わせなどはプロジェクトのホームページ<http://sapporobike.jimdo.com/>。



還暦ラガーマン集ま

来月5日に交流試合

25日・北海道

北見市内で7月開かれる「第61回まつり」をPRし



さっぽろあさひ

(25日)

札幌トヨペットBB

1300100

BLAST

水道

北区(26日) 濁水▽篠路9〜10 1時〜同5時▽あ